

令和4年度の農業者年金の運用状況について

資産運用の実績

みなさまからお預かりした保険料や国庫補助金等の資産を運用した結果、令和4年度末の運用収入は一約28.4億円、収益率は-1.08%、時価総額は約2,650億円となりました。



単位：百万円

令和4年度の資産運用実績

資産	運用収入	収益率(注1)	時価総額
国内債券	-1,402	-0.95%	143,290
国内株式	1,845	5.66%	33,436
外国債券	-4,044	-8.88%	51,511
外国株式	818	2.31%	35,824
短期資産(注2)	-57	-	930
合計(注3)	-2,839	-1.08%	264,991

(注1)収益率は、期間中に発生した利息や配当収入、債券・株式の売買及び株価変動等による損益を含めた収益率(修正総合利回り)です。

(注2)短期資産の運用収入のマイナスは、運用受託機関に対する信託報酬等を支出したことによるものです。

(注3)四捨五入の関係で合計欄の数値が合わない場合があります。

<農業者年金の直近10年間の運用利回り>

単位：%

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
資産	国内債券	1.07	2.16	3.41	-0.25	0.84	1.39	0.24	-0.16	-0.68	-0.95
	国内株式	19.84	30.30	-10.65	14.81	18.99	-4.39	-9.19	41.41	1.78	5.66
	外国債券	14.31	11.98	-2.75	-5.08	4.21	3.29	7.25	-2.10	-5.25	-8.88
	外国株式	31.91	23.15	-8.46	14.41	10.95	9.81	-12.27	59.35	21.61	2.31
全体	7.75	8.78	-0.69	3.26	4.75	1.71	-2.08	10.82	2.39	-1.08	

※直近10年間の運用利回りの平均は、年率3.48%です。

なお、新制度発足以降の21年間の運用利回りの平均は、年率2.74%です。

令和4年度の付利について

運用の結果得られる収入等を、加入者のみなさま一人ひとりに配分することを「付利」といいます。

令和4年度末の付利では、以下の図のように、運用収入（一約28億3千9百万円）から制度的に必要な額（約8千6百万円）を引き、付利準備金からの補てん額（約29億2千5百万円）を足して、付利原資（0円）を求めます。付利原資が0円であることから、令和4年度におけるみなさまへの付利額は0円となりました。

みなさまの令和4年度末における年金原資の積み立て状況につきましては、このパンフレットに同封させて頂いた「令和4年度 運用（付利）結果のお知らせ」（付利通知）をご確認ください。

運用収入 一約28億3千9百万円

運用収入からの控除等 一約8千6百万円

- 前納保険料割引額 一約2百万円
- 裁定者への付利額 一約2千3百万円
- 準備金繰入額 一約0百万円
- その他加算・控除等 一約6千1百万円

付利準備金からの補てん額
約29億2千5百万円

付利原資 0円

令和4年度中の運用額・運用期間に応じて
付利原資を配分
令和4年度付利率 0.00%

加入者ごとの付利額(付利通知に記載)

直近10年間の付利率の推移

年度	付利率
平成25年度	7.13%
平成26年度	8.03%
平成27年度	-0.76%
平成28年度	2.98%
平成29年度	4.42%
平成30年度	1.63%
令和元年度	-2.22%
令和2年度	9.81%
令和3年度	2.22%
令和4年度	0.00%

令和4年度運用（付利）結果のお知らせ《印字例》

〒105-8010
東京都港区西新橋1丁目6番21号

農 年 太 郎 様

カスタマーコード欄
プリント管理番号欄

新制度の保険料や国庫補助に対して、令和4年度決算に基づき実施した年度末付利の結果が、以下のとおりとなりましたのでお知らせします。

令和5年6月26日
独立行政法人農業者年金基金
理事長 黒田 夏樹 公印

被保険者記号番号
XXXXXXXX-XXXXXXXXXXXX

1. 付利額などのお知らせ (単位: 円)

	令和4年3月末 (前年度末)	前年度末 (修正後)	令和5年3月末 (当年度末)	当年度増減
運用	3,620,283	—	3,620,283	240,000
控除	2,680,000	—	2,680,000	240,000
付利	940,283	—	940,283	0
特別	3,055,976	—	3,055,976	0
付加	2,160,000	—	2,160,000	0
原資	895,976	—	895,976	0
合計	6,676,259	—	6,676,259	240,000
保険料	2,680,000	—	2,680,000	240,000
国庫補助	2,160,000	—	2,160,000	0
付利	1,836,259	—	1,836,259	0

2. 保険料の納付状況などのお知らせ

日付	事項	保険料納付額 (農業者老齢年金)	国庫補助額 (特別付加年金)	摘要
R.4.3.31	前年度末合計額	3,620,283	3,055,976	
R.4.4.25	4年3月分保険料	20,000	0	
R.4.5.23	4年4月分保険料	20,000	0	
R.4.6.23	4年5月分保険料	20,000	0	

(注) 1. 特別付加年金は、受給要件を満たした場合(原則65歳に達し、かつ、経歴補正等により農業者年金に等しくなる場合)に年金として支給されます。

2. 前年度末(修正後)欄には、令和4年3月以前に遡って補給資格の変更があった方に限り、変更後の前年度末付利額が印字されています。

付利準備金からの補てんについて

農業者年金では、マイナス運用のリスクに備えて、①65歳以上の年金裁定時に、付利累計額がマイナスとなる方のマイナス相当額を補てんする仕組み、②各年度の付利原資がマイナスとなった場合に、マイナス相当額を補てんする仕組みを設けています（詳しくは、同封している「皆様からのご質問にお答えします」をご覧ください）。

令和4年度の運用利回りは-1.08%となりましたが、②の仕組みを活用して、約29億2千5百万円の補てんを行うことにより、付利利率を0.00%に抑えることができました。

年金資産の運用は、金融・経済情勢等の運用環境の影響により、運用成績がプラスになる年やマイナスになる年がありますが、農業者年金では、こうした仕組みにより、お預かりしている年金原資を安定的に確保していくことが期待できます。

安全性に配慮した運用を行っています

年金資産の運用は、長期的な視点から安全で効率的に行うことが大切なため、運用資産に対する投資割合などの運用の基本的な方針を定め、それに従って運用することが一般的です。

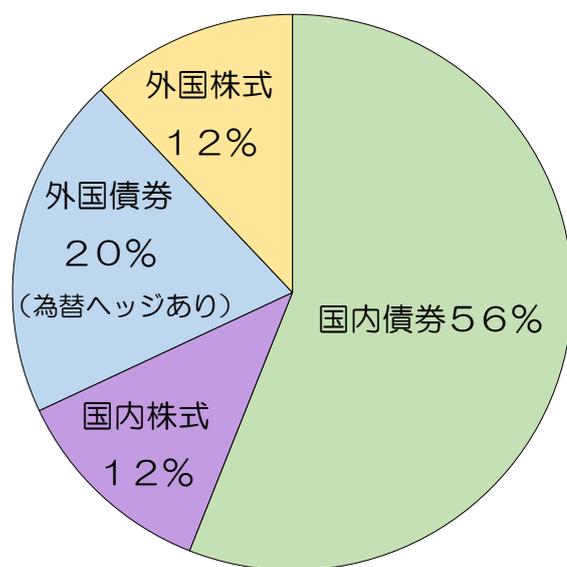
農業者年金基金の運用については、農林水産大臣の認可を得て策定した「年金給付等準備金運用の基本方針」に基づいて行っております。

この中で、年金資産の性格の違いに応じたポートフォリオに区分して管理・運用を行っており、加入者のみなさまの資産は「被保険者ポートフォリオ」において、リスクを抑えるために資産の過半を安全性の高い国内債券で運用し、さらにその一部を時価変動の影響を受けない満期保有として自家運用することで、利回りの変動が大きくなるようにしていません。

また、自家運用以外の国内債券、国内株式、外国債券、外国株式については、信託銀行に委託して運用し、市場平均並みの収益を目指す運用（パッシブ運用）を行っています。

資金の運用の状況につきましては、このパンフレットでお知らせするほか、四半期ごとに農業者年金基金のホームページで公表しております。

農業者年金の資産構成割合



専門家のご意見

令和4年度の運用について、米欧の長期金利が大幅に上昇し、内外債券市場が年度を通じて下落する環境でした。労働力不足やロシアのウクライナ侵攻に伴う資源高などの要因によって世界的に進行したインフレを抑制させるために、米欧の中央銀行は政策金利をハイペースで引き上げました。政策金利引き上げに先行して米欧の長期金利が上昇し、債券価格は下落しました。米欧の政策金利引き上げは、為替レートを大幅に円安方向に変動させることとなり、10月には一時1ドル＝150円台と32年ぶりの円安水準となりました。10月以降、米国のインフレが鈍化したことで、FRB（連邦準備制度理事会）による利上げが早期に打ち止めになるとの期待が高まり、海外の長期金利上昇や円安は一服しました。国内の長期金利は、日本銀行がコントロールする長期金利変動幅の範囲での変動に留まっていたましたが、その変動幅を12月に0.25%から0.50%に引き上げたことで国内長期金利は大幅に上昇し、国内債券の価格は一時大きく下落しました。3月に発生した米國中堅銀行の破綻などで不安感が広がり、国内の長期金利は上昇幅を縮め期末を迎えました。

農業者年金基金の資産運用は安全性を重視して、被保険者のためのポートフォリオでは、債券の保有比率を高め、比較的リスクの高い株式等にも分散投資されています。

債券と株式を組み合わせた運用を行う理由は、収益が上下に振れるタイミングが違う投資対象を組み合わせることで、資産全体で長期的に安定した運用収益が得られると期待されるからです。また、近年我が国の金利は超低水準となっており、過度に安全性を重視した運用では、かえって資産全体の収益低下につながる可能性があります。一般的に株式は短期的にみると、リターンの振れが大きくマイナスになることもありますが、長期的にみると債券を上回るリターンが期待されます。

農業者年金基金の資産運用は、制度の特性を勘案して策定された運用方針に基づき適切な運用が行われており、安全性と収益性のバランスを考慮しつつ、市場環境の変化に即した資産運用が実践されているということが出来ます。

みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社 年金コンサルティング部

主席コンサルタント 川名 巨樹

みなさまへのお願い

農業者年金制度は、農業者なら広く加入できること、終身年金であること、税制上の優遇措置などメリットも多い制度です。

ご家族やご近所などの加入資格のある方で、まだ加入されていない方がいらっしゃいましたら、ぜひ加入を勧めていただきますようお願いいたします。

このパンフレットや付利結果のお知らせについてのお問合せは下記にお願いします。なお、資金の運用の状況につきましては、このパンフレットでお知らせするほか、四半期ごとに農業者年金基金のホームページで公表しております。

独立行政法人 農業者年金基金 〒105-8010 東京都港区西新橋1-6-21

03-3502-3898 (資金部 企画課)

03-3502-3199 (専門相談員)

03-3502-3946 (業務部 適用・収納課)

ホームページアドレス <https://www.nounen.go.jp>